

10 「協働・協創」・「SDGs」

-
- (1) 「協創」の認知
 - (2) 協働・協創の実践
 - (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価
 - (4) SDGsの認知状況
 - (5) SDGsの関心状況
-

10 「協働・協創」・「SDGs」

（1）「協創」の認知

問40 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。

あなたは、この「協創」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

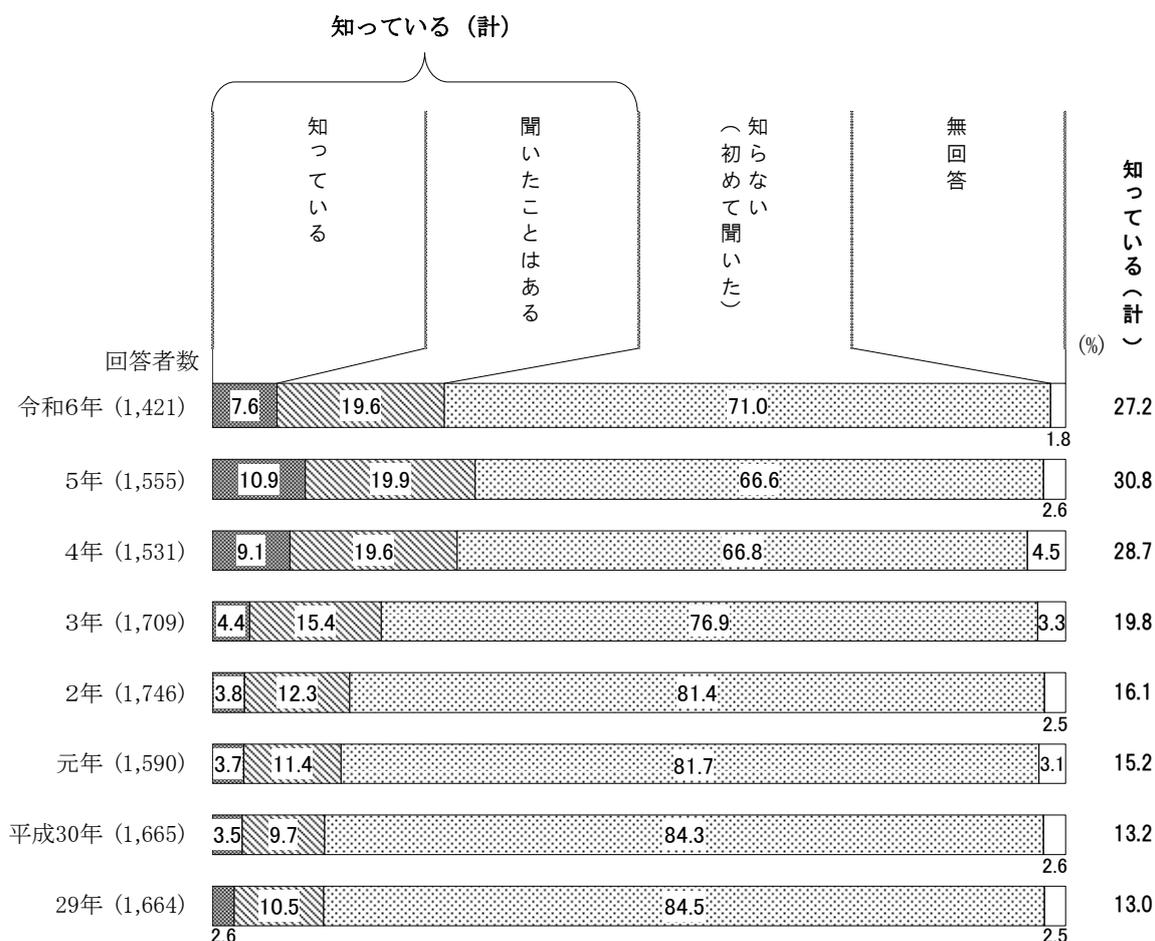
■【知っている】は、前回の3割から3.6ポイント減少

ア 単純集計・経年比較／「協創」の認知

（ア）「協創」について「知っている」が7.6%で、これに「聞いたことはある」（19.6%）を合わせた【知っている】は27.2%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は71.0%を占めている。

（イ）前回調査との比較では、「知っている」が3.3ポイント減少し、「知らない（初めて聞いた）」が4.4ポイント増加となっている。

図 10-1-1 経年比較／「協創」の認知

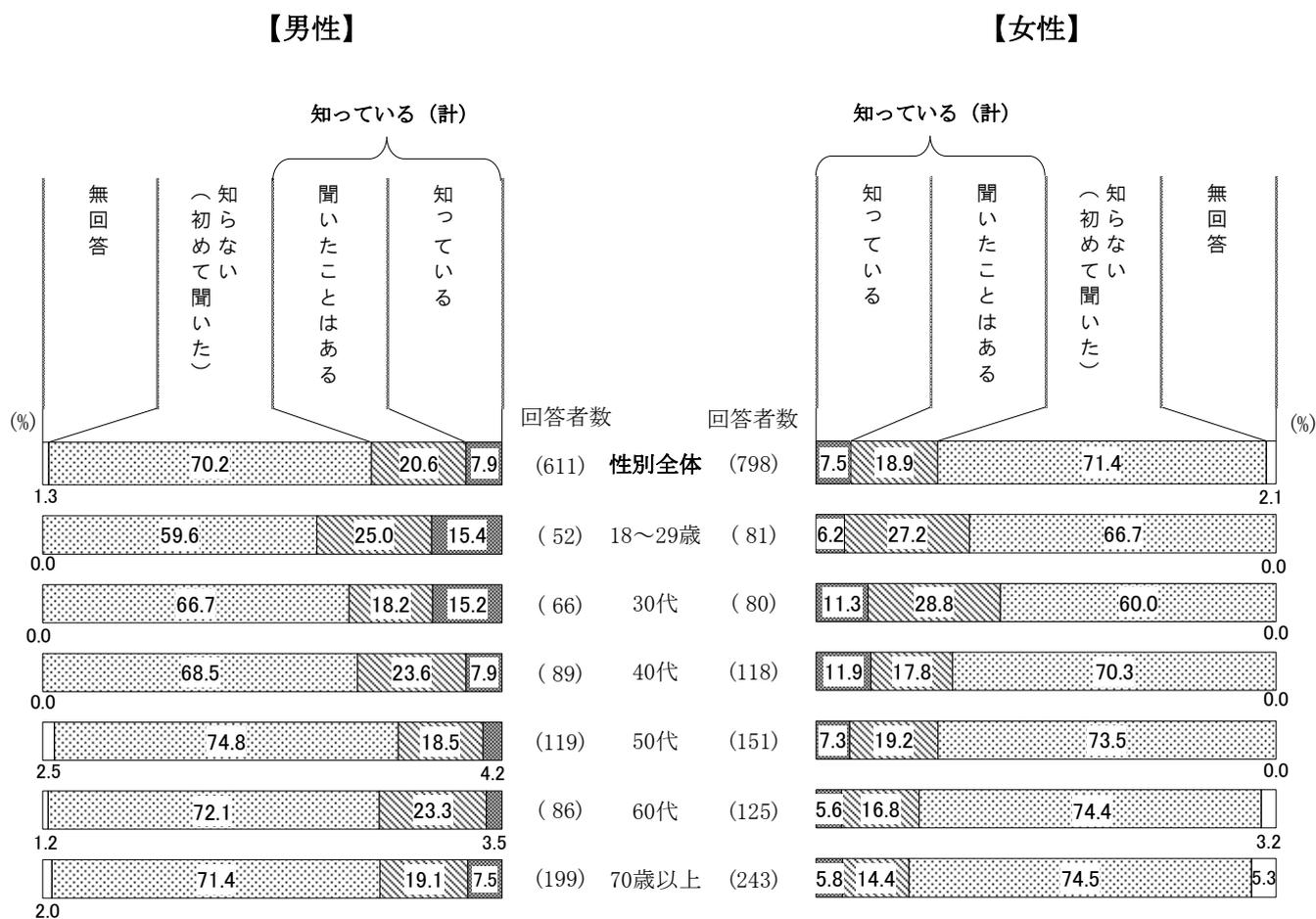


イ クロス集計・性別、性・年代別／「協創」の認知

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、男性の18～29歳で40.4%と最も高く、次いで女性の30代（40.0%）、女性の18～29歳、男性の30代（各33.3%）と続いており、男女とも30代以下の年齢層で高くなっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性では50代以上、女性では40代以上の年齢層で7割台と高くなっている。

図10-1-2 性別、性・年代別／「協創」の認知



(2) 協働・協創の実践

問40で「1 知っている」とお答えの方に

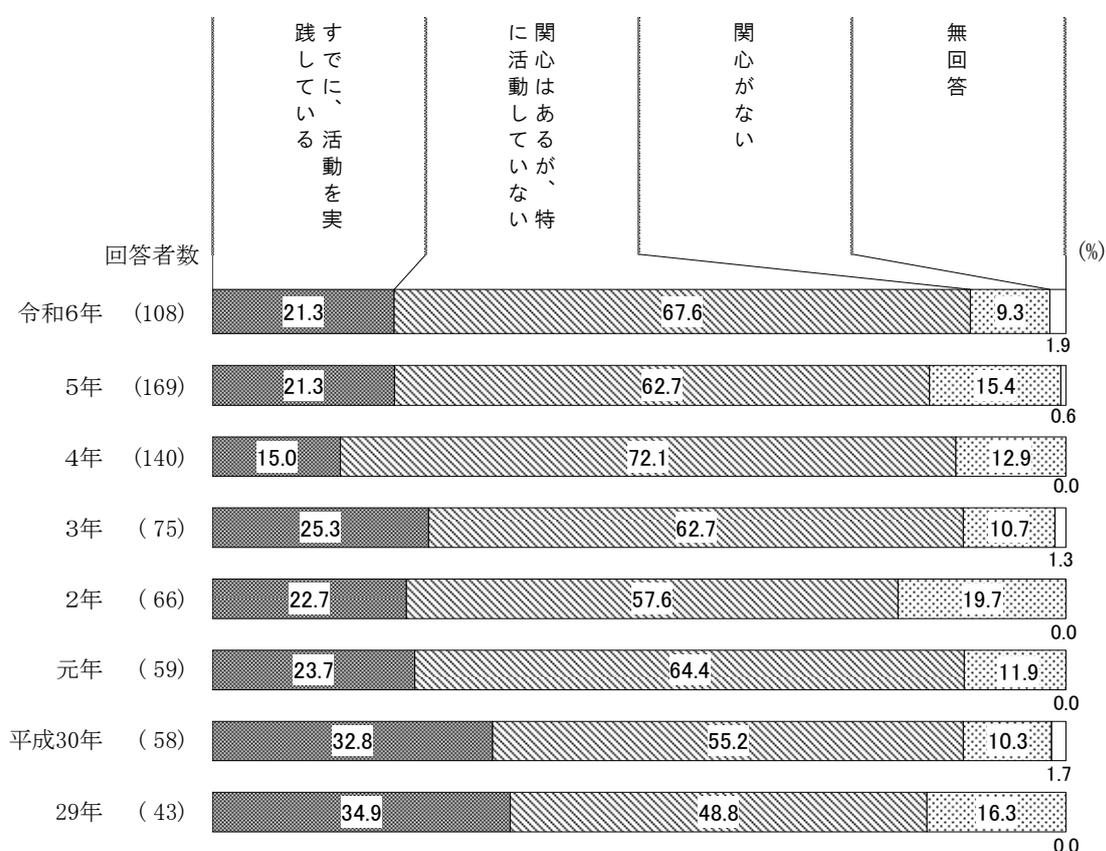
問40-1 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）
（○は1つだけ）。

■「すでに、活動を実践している」は変わらないものの、「関心はあるが、特に活動していない」が4.9ポイント増加

ア 単純集計・経年比較／協働・協創の実践

- (ア) 「協創」を「知っている」という人の実践状況をみると、「すでに、活動を実践している」が21.3%で、「関心はあるが、特に活動していない」が67.6%で最も高くなっている。
- (イ) 「協創」を《知っているが、関心がない》は9.3%となっている。
- (ウ) 前回調査との比較では、「すでに、活動を実践している」は変わらないものの、「関心はあるが、特に活動していない」が4.9ポイント増加し、《知っているが、関心がない》が6.1ポイント減少している。

図 10-2-1 経年比較／協働・協創の実践



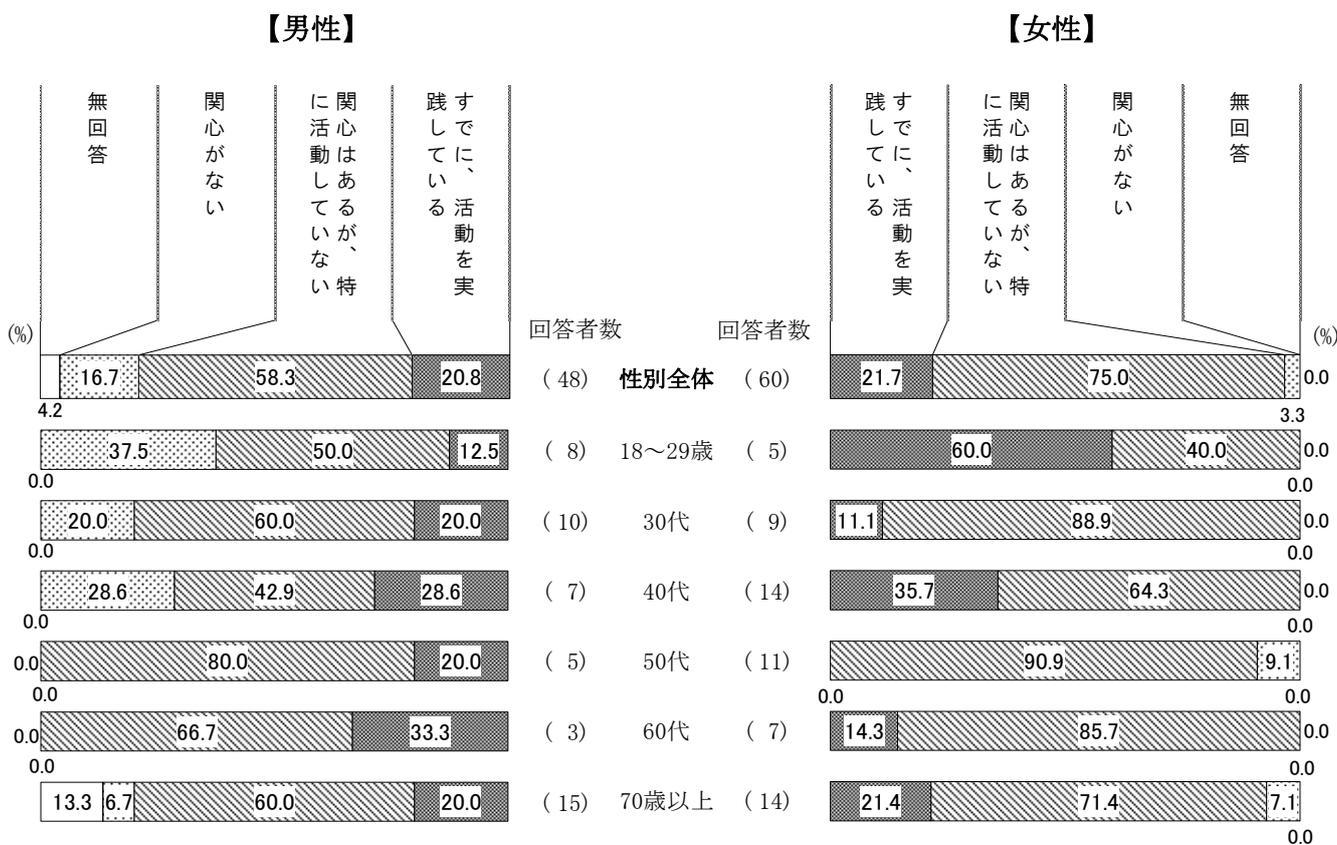
イ クロス集計・性別、性・年代別／協働・協創の実践

(ア) 性別で見ると、「すでに、活動を実践している」に違いは見られないが、「関心はあるが、特に活動していない」は女性（75.0%）の方が男性（58.3%）より16.7ポイント高くなっている。

(イ) 「関心がない」は男性（16.7%）の方が女性（3.3%）より13.4ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別では、すべての性・年代層でサンプル数が30未満のため、参考のために図示のみとし、コメントは割愛する。

図10-2-2 性別、性・年代別／協働・協創の実践



(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

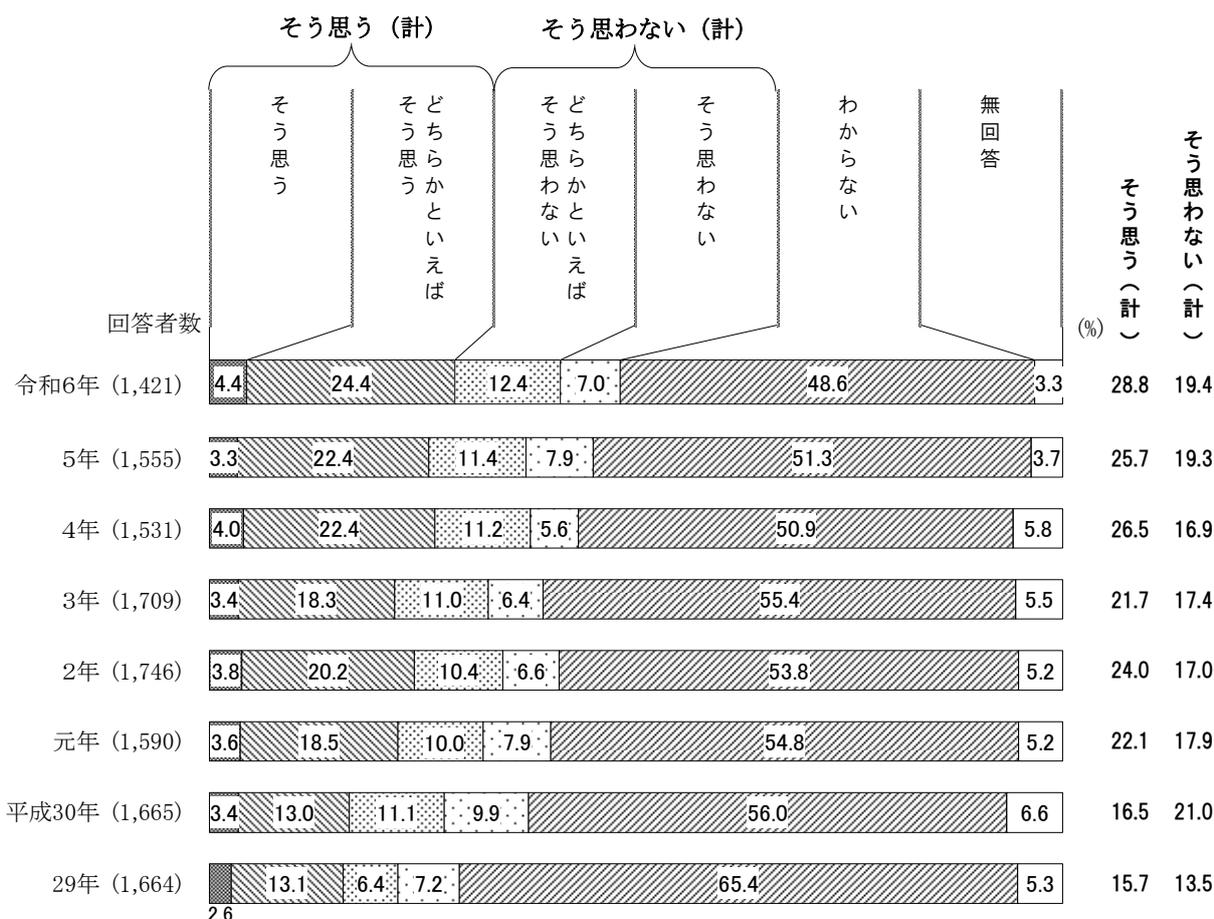
問41 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）
 （○は1つだけ）。

■【そう思う】（3割弱）が【そう思わない】を上回っているものの、「わからない」が5割弱

ア 単純集計・経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

- (ア) 協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」が4.4%で、これに「どちらかといえばそう思う」（24.4%）を合わせた【そう思う】は3割弱となっている。
- (イ) 「どちらかといえばそう思わない」（12.4%）と「そう思わない」（7.0%）を合わせた【そう思わない】は約2割となっている。一方、「わからない」（48.6%）が全体の半数近くを占めている。
- (ウ) 前回調査との比較では、【そう思う】が3.1ポイント増加している。

図 10-3-1 経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



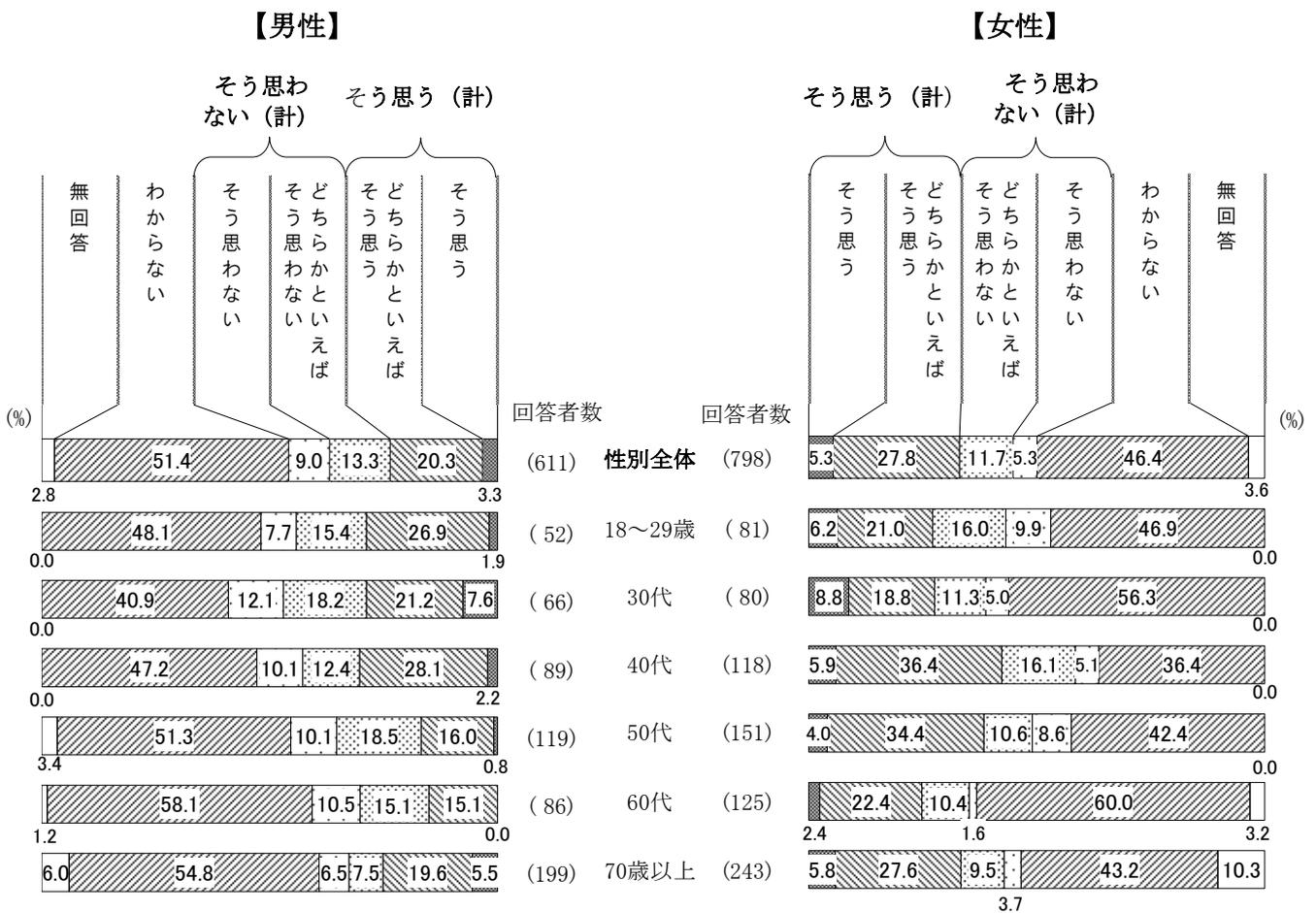
※ 平成30年度の設問文は「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、令和元年度には設問文の一部表現が変更になるとともに「子どもの貧困対策」が追加挿入された。さらに、令和2年度には設問文の一部が現在の設問文に変更された。

イ クロス集計・性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

(ア) 協働や協創による事業が進んでいると感じるかについて性別で見ると、【そう思う】は女性（33.1%）の方が男性（23.6%）より9.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【そう思う】は女性の40代で42.4%と最も高く、次いで、女性の50代と70歳以上、男性の40代が3割台で続いている。一方、【そう思わない】は男性の30代が30.3%と最も高く、次いで、男性の50代が3割弱となっている。

図10-3-2 性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



（4）SDGsの認知状況

問42 あなたは、SDGsについて知っていますか（○は1つだけ）。

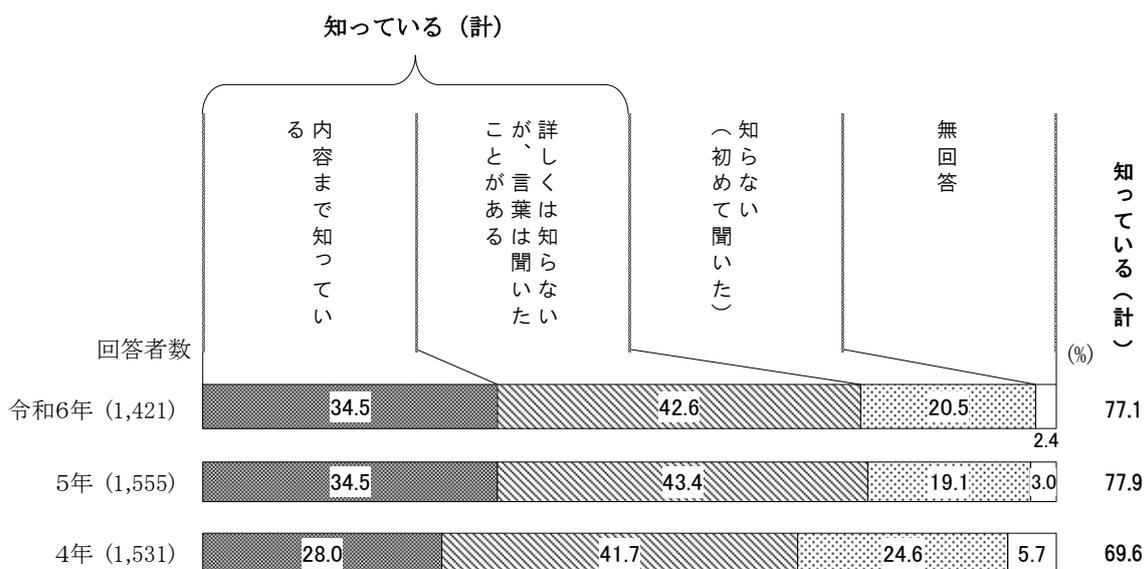
※ 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

■ 「内容まで知っている」が3割台半ば、【知っている】が7割台半ば超で変化なし

ア 単純集計・経年比較／SDGsの認知状況

- （ア）SDGsの認知については、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が42.6%で最も高く、これに「内容まで知っている」（34.5%）を合わせた【知っている】は7割台半ばを超える。一方、「知らない（初めて聞いた）」は20.5%となっている。
- （イ）前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

図10-4-1 経年比較／SDGsの認知状況

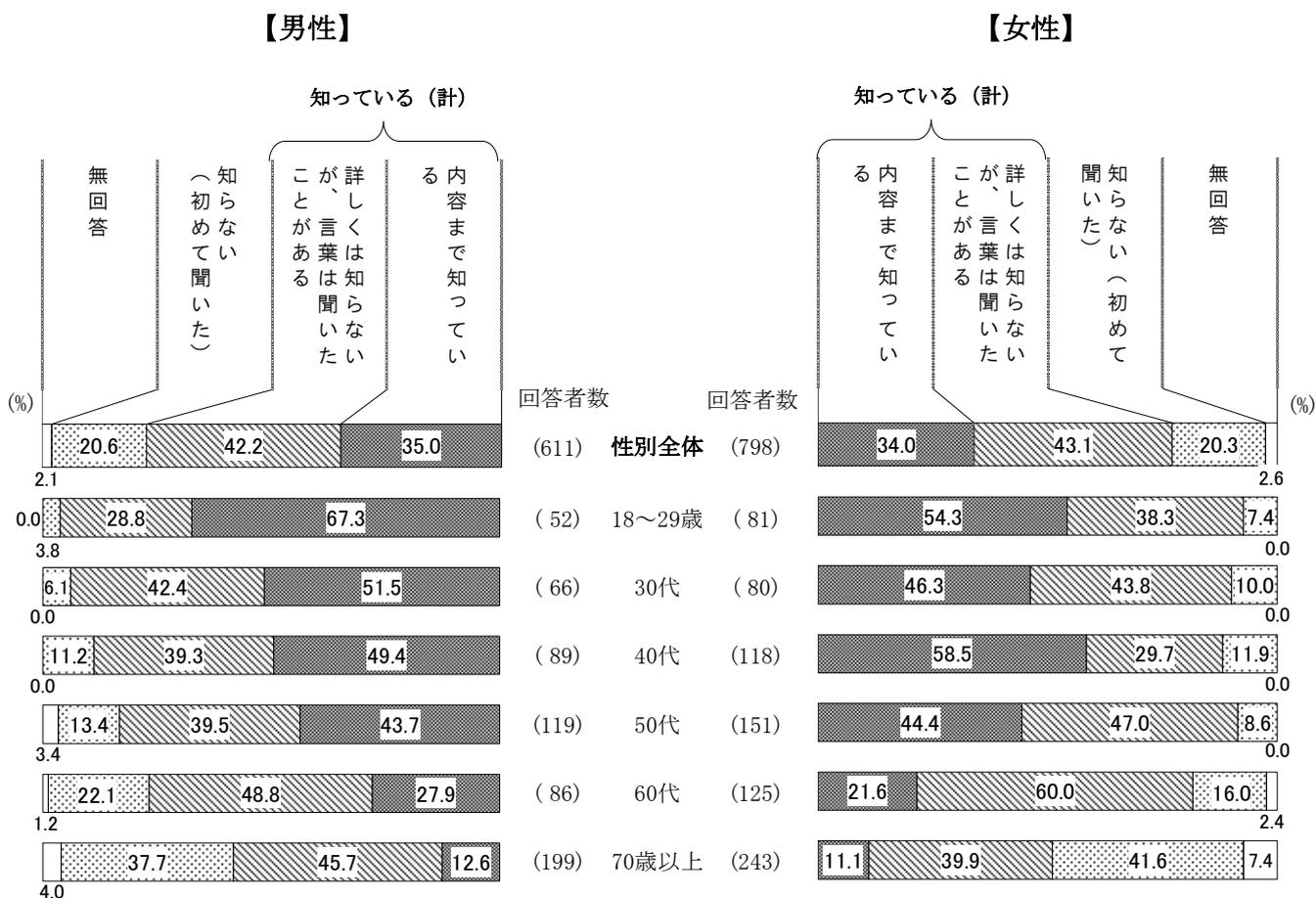


イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの認知状況

(ア) SDGsの認知について性別で見ると、特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別で見ると、「内容まで知っている」は、男性の18～29歳で67.3%と特に高くなっており、次いで、女性の40代（58.5%）、18～29歳（54.3%）、男性の30代（51.5%）などとなっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男女とも70歳以上（男性37.7%：女性41.6%）で高くなっている。

図10-4-2 性別、性・年代別／SDGsの認知状況



(5) SDGsの関心状況

問43 あなたは、SDGsに関心がありますか（○は1つだけ）。

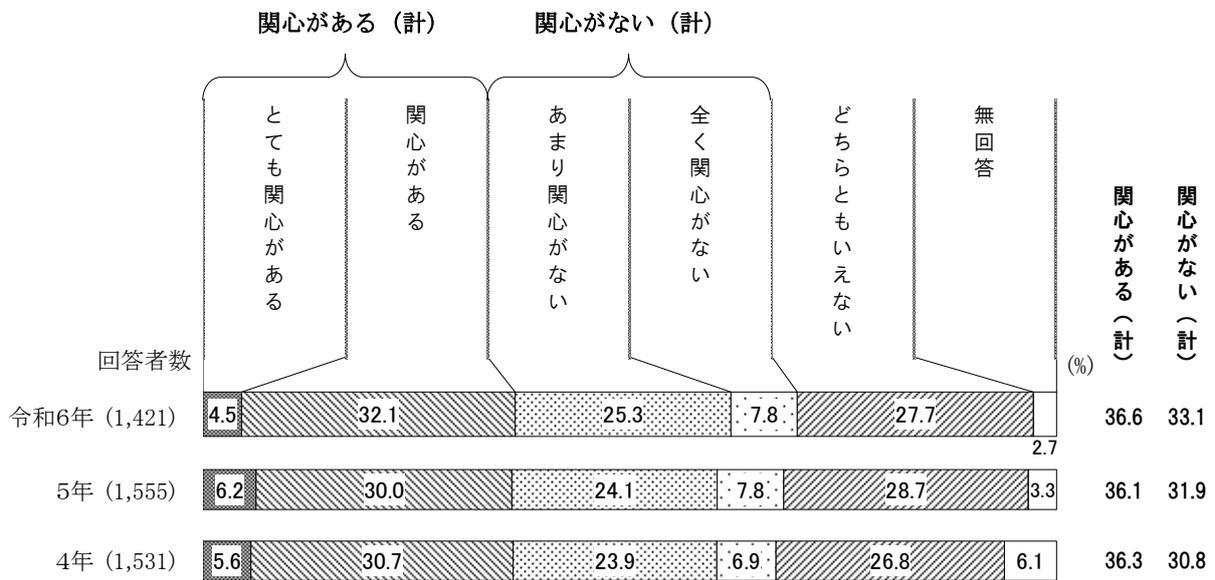
■【関心がある】が3割台半ばで、【関心がない】の3割半ば近くを上回る

ア 単純集計・経年比較／SDGsの関心状況

(ア) SDGsへの関心状況については、「関心がある」が32.1%で最も高く、これに「とても関心がある」(4.5%)を合わせた【関心がある】は3割台半ばとなっている。一方、「あまり関心がない」(25.3%)と「全く関心がない」(7.8%)を合わせた【関心がない】は3割台半ば近くとなる。また、「どちらともいえない」は27.7%となっている。

(イ) 前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図10-5-1 経年比較／SDGsの関心状況



イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの関心状況

(ア) SDGsの関心状況について性別で見ると、【関心がある】は、女性（39.2%）の方が男性（33.6%）より5.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【関心がある】は、女性の40代が55.9%で最も高く、次いで、女性の30代（47.5%）、18～29歳と50代（各45.7%）が4割台半ばで続いている。一方、【関心がない】は、男性の30代が51.5%と最も高く、次いで、男性の18～29歳（48.1%）、40代（44.9%）などとなっている。

図10-5-2 性別、性・年代別／SDGsの関心状況

